



国際交流員ウィルペルトのコラム

平等な権利、平等な義務！？ Gleiche Rechte, gleiche Pflichten? (グライヘ レヒテ, グライヘ プフリヒテン)



今月のコラムに何を書こうか迷っていたとき、おもしろいニュースに遭遇したので、それにしました。同じ日の日本とドイツのニュースで同じ話題が出たのに、判定は真逆だなと感じたのです。

読売新聞の英語版で、男女平等に関して、日本は190か国中104位という低い順位であることが報じられました。日本の女性は、男性が享受している法的権利の78.8%しかもっていないというのです。それに対し、ドイツを含むヨーロッパ13か国では、女性は100%の権利をもち、法の下では男性と完全に対等であるとされていました。

しかし、同じ日、ドイツのニュースアプリを開くと、「3月7日はEqual pay day (イコールペイデイ)」、ドイツにおける男女の賃金格差を示す日だと出てきました。統計的には、男女ともに1時間の労働に対して同じ報酬を受け取ったとすると、男性は1月1日から受け取っているのに対し、女性は3月7日からしか受け取っていないことになることから、この日が設けられました。このギャップは、家事や育児、介護などの無報酬労働が依然として女性に任せられ



がちなことに加え、女性が、介護や保育など、従来男性が選択してきた仕事よりも時給が低い職業に多く就いていることが、要因となっています。

もちろん、これらは法の下での平等と経済的平等という異なる問題です。しかし、社会がさまざまな分野で女性の不平等問題に良い答えが出せないのはなぜだろう、なぜこんなに難しいのだろうと、私はよく考えます。

ドイツでは、2022年に大学入学資格を取得した女子が男子より5.5%多く、平均して男子より良い成績でした。大学に入ってから成績も、平均的に女子が男子を上回っています。しかし、社会人になって家族ができると、女性がパートタイムで働くことや収入が少ないことが多く、従って退職後にもらう年金も少ないです。明らかに、女性は経済的に不利な立場に置かれ、自分の可能性を実現できていない状況が続いています。

ですが、研究によると、女性にとってキャリアを積みやすい環境を整えることは、私たちの国の利益にもつながるはずです。少なくとも、3人の女性取締役がいる企業は、2人以下の女性取締役しかいな

い企業よりも財務業績が大幅に向上するという調査結果があります。

日本のニュースで、政府が女性の経済的活躍も出産率も促進したいという話をよく見聞きする気がします。私には、「女性は、社会の繁栄のために子どもを産み、社会と経済の繁栄のために子どもや家庭

の世話を無休でして、さらに経済的繁栄のために有給労働もすべきです。でも、男性の社会的立場についてはあまり議論したく



ありません。男性には、もうちょっと家族と時間を過ごせる機会（育児休暇など）はある程度まで作るけど、基本的には今のまま、経済のために長い時間を会社に尽くすべきです」と聞こえます。

しかし、1日は男女平等に24時間しかありません。そんな無理難題を前にして、女性たちが、自分の人生をどうするか、限られているエネルギーを何のために尽くすかを考え直すのは不思議なことではないと思います。男性も等しく変わらなくては、女性の社会における役割を変えられるとは思えません。

ドイツでは、多くの女性が自分の将来を決めるため、過去に目を向けています。両親の関係の質が重要な役割を果たします。例えば、父親への依存度が高い母親のもとで育った女性は、子どもをもつことで自分も同じような依存状態に陥らないよう、子どもを産むことに対して非常に慎重な態度を取ります。つまり、伝統的な家族モデル（働く父、家庭にいる母）は、若い女性にとって、子どもを望むことを躊躇させる効果があります。また、ひとり親家庭で育った女性は、子育てにかかる経済的負担やその他の負担を強く意識し、将来の家族のあり方について、自分の状況を慎重に判断するようになります。

多くのドイツ人にとって、女性も男性も、より多くのチャンスと選択肢をもつ社会ができたからこそ、そのチャンスには責任も伴います。私たちは親から学ぶべきであり、社会が提供する機会が増えた中で、自分自身と子どもたちのために、より良い選択をする・より良い生活を送る義務があります。子どもを産むだけではなく、子どもがこの社会で成功できるような家庭と環境を整えるべきです。なので、それができない・経済的に余裕がないと恐れる人が子どもを産まない選択をするのも自由です。

私から見れば、平等な社会を作ることが、繁栄への近道です。女性が、子どもに良い人生を歩ませることができないかもしれないという恐れや、自分自身が貧困に陥る恐れが存在しない社会。そして、男性が、経済的、社会的、家族的な幅広い役割の中から、自分に一番合っているバランスを容易に選択できる社会。そんな社会の中で生きていきたいし、そんな社会でなら、子どもを産んでもいいと思います。